

真鶴

自治会だより

皆、皆が住みよい町に

今、自治会連合会では

4年前に、「会員の加入促進」「活動の見える化」をキーワードにスタートした特別委員会は、その後「環境美化（ゴミ問題）」「防災対策」に取り組み、具体的な方策を提言してきました。

昨年度（令和5年度）は、研修と共に、町のハザードマップを基に、単位自治会ごとに防災計画を作成してきました。

今年度は、さらに進めて、

- ① 要支援者個別避難計画についての研修を実施した。（4月17日）
- ② 防災講演会とワークショップ（6月29日）を行った。
テーマは『東日本大震災の教訓から考える地域防災』講師：福島大学特任教授・天野和彦氏。自治会だより9月号（116号）参照。
- ③ 9月の防災訓練（9月21日）は、指定避難所である真鶴中学校体育館で初めて実施した。
参加：城北・山ゆり自治会、真鶴中学校生徒・教職員計200余名。朝倉会長が中学生対象に事前指導を行った。

④ 被災者に安全と安心の場を提供し、被災者らがお互いに助け合いながら、生活再建に向けて踏み出す場を創出することを目的とする「避難所運営について」検討した。（2月18日）

⑤ 防災以外では、自治会加入パンフレットを作成して、全戸配布（12月）・公共施設にも配布した。

⑥ さらに町の喫緊の課題でもある空き家問題・対策の研修も行った。（12月24日）

〈成果と課題〉

成果：防災意識を高めることができた。

① 6月の防災講演会では、「さすねなぶる」を学んだ。また、避難所で発生する様々な問題に対応する方法を自治会会員の参加のもとでワークショップを通して体験した。

② 9月の防災訓練では、朝倉会長が中学生対象に事前指導を行い、生徒の防災意識も高まった。

③ 4か所の指定避難所（真鶴中学校、まなづる小学校、ひなづる幼稚園、岩ふれあい館）にキーボックスを設置した。

④ 防災以外では、自治会加入促進として、パンフレットを作成し、全戸配布した。

⑤ 空き家問題・対策では、問題意識を深めるために、自治会だより3月号と町の広報3月号と連携する取り組みを行った。

課題：下記の計画が実施できなかった。

* 単位自治会ごとに防災計画に基づいて訓練を実施し、防災計画の見直しをする。

* 東・西・みさきは津波を想定した訓練を合同で行う。

* 単位自治会ごとの防災計画のエリアを広げて、消防団の分団を単位としたエリアでの防災計画を検討する。

* 要支援者個別避難計画について理解を深める。東、西自治会で作成予定。

令和7年度は、

* 前年度の積み残しの

課題への取り組み

* 空き家対策など、

町の課題に自治会として

の主体性を持って連携していく。

「皆、皆が住みよい町」にするために、会員の英知を結集して課題を解決していきましょう！

特別委員会 青木友晴



交流が深まりました

土肥道自治会 征矢 明美

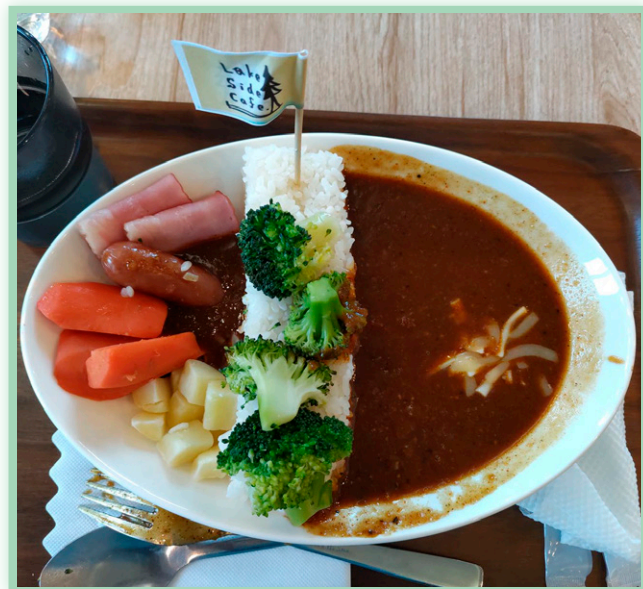
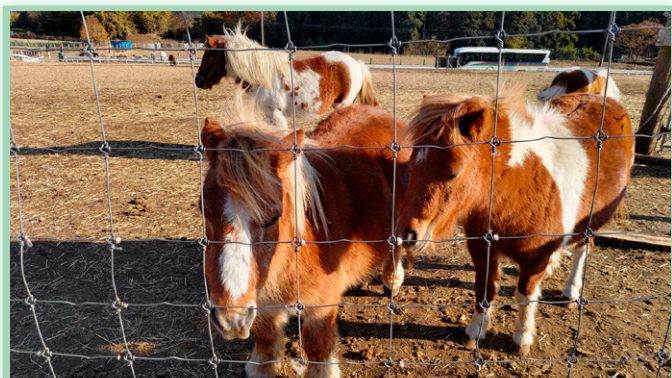
最初に訪れたのは、相模原市緑区长竹にある〈オギノパン〉です。そこで、パン工場を見学した後で、作りたてのパンを購入しました。出来立てはやはり美味しいです。出来上がったパンは30分後に袋とじすると、パンの劣化が抑えられるということ学びました。



次に訪れたのは、愛川町にある宮ヶ瀬ダムです。始めに水とエネルギー館で レクチャーを受けました。このダムは高さ156m・天端幅18m・堤頂長375m・体積200万m³の重力式コンクリートダム（コンクリート使用量が日本一）です。水道水は神奈川県下（横浜市や川崎市も含む16市5町）に供給されます。（真鶴町など県西地域には供給されません）この後に〈ダムカレー〉をいただいて、ダムを見学しました。ダムには、流木、プラスチック類やビン、缶、廃タイヤなどさまざまなごみ流れ着きますので、連日回収作業に追われています。

3番目に訪れたのは服部牧場です。そこでは飼育されている乳牛の説明を受けました。

ホルスタイン種・ジャージー種・ブラウンスイス種併せて50頭余りの乳牛、馬、羊、ヤギ、うさぎ、ミニブタなど10種類以上の動物達が飼育されています。ここでは搾りたての生乳から作った、濃厚なソフトクリームをいただきました。生乳は雪印乳業に卸しているということです。そしてポニー達と戯れた後、最後の目的地である〈あつぎ郷土博物館〉を訪れました。そこでは〈ドグウ集まれ！〉と題した特別展が行われていて、縄文時代に発掘された〈ドグウ〉が100点以上展示されていて、数の多さに圧倒させられました。発掘された土偶の説明を聞き、当時の生活が忍ばれました。



以上とても有意義な社会見学の日を終える事が出来ました。それぞれの関係者の皆様に感謝申し上げます。



寄稿

ほぼ月に1回
開催しています!



みんないつかは じぶんごと

真鶴空き家勉強会

町中に空き家が多そうなのに、不動産情報や空き家バンクにあまり載っていないのはなぜだろう？移住希望者がなかなか良い家が見つからないと言っている…なんだかもったいない…何かできることはないだろうか？そんな想いのある有志で始めた勉強会です。

真鶴の空き家や空き家予備軍である建物が少しでも健やかに善き人に受け継がれていくことを願い、ひいては真鶴町の風景を承継することに繋がればと、活動を続けています。これまで25回以上、相続・修繕・家の終活・体験談・お金の話・活用例など様々なテーマで学びあいの場を作ってきました。参加者は地元の方々や移住者をはじめ、移住希望者、真鶴に興味がある方など、町内外の交流・情報交換の場となり、お悩みや困りごとの相談窓口にもなっています。

開催のお知らせは広報真鶴のタウンボックス欄に掲載しています。堅苦しくなく和やかな雰囲気を目指していますのでお気軽にご参加ください！また、勉強会で扱ってほしいテーマも随時募集中です。みんなで学びあうことで、町に幸せな灯りが増えることを願っています。



→→→
これまでの様子は
Instagramに
記録しています!



主催：有志団体 / 真鶴空き家勉強会チーム
連絡先：090-2631-9418 (藤井)
もしくはInstagramのダイレクトメッセージから

各分会 令和6年度活動報告

防犯防災部会

(1) 防犯パトロール

令和6年度は、4月～次年3月迄で全9回を計画するが、天候不良などで2回の中止順延が発生し、全7回防犯パトロールを実施。

7・8月の2ヶ月は、単位自治会毎に夜間の防犯パトロールを実施。

10月は全国地域安全運動の一環として、JR真鶴駅前および小田原百貨店前で防犯啓発ビラ配布を実施。

(2) 防災訓練と防災講演会

9月の町の総合防災訓練は、JR線路から上側の住民を対象として実施。

同時に真鶴中学の生徒全員を対象に、防災講演の実施並びに防災訓練へも参加してもらった。

10月の津波対策訓練では、津波被害が想定されている地区住民を対象とした避難情報伝達、避難所への避難訓練を実施。

6月に天野氏を講師に招き、

避難所運営についての講演を行った。

広報部会

今年度も「部員全員で取材し、全員が記事を書く」をモットーに広報活動を進めてきました。

◆自治会だよりは計画通り、年4回発行（6月、9月（カラー）、12月、3月（カラー））

○6月号では暮らしの課題と銘打ち、「ゴミ出し困難」の問題提起の寄稿文を掲載。

○9月号では「防災講演会＆ワークショップ」で学んだ避難所での被災者支援のあり方を報告。

「真鶴のまつりとまちづくり」と「中川一政美術館」の寄稿文を掲載。

○12月号では「自治会連合会視察研修」と「真鶴町町長との話し合い」、および「コミュニティ真鶴の利用方法」を報告。

○3月号では「真鶴空き家勉強

会」と「成人学級社会見学」の寄稿文を掲載。

記事を提供して頂きました皆様、ご協力ありがとうございました。

◆ホームページは2023年4月に開設し丸2年経過しました。自治会連合会が関わっている諸活動や祭りの様子等をタイムリーに、写真や一部動画も付けて紹介しています。2年で約4000回のアクセスがありました。毎月のアクセス数も平均していて、コアな読者がいらつしやるようでありがたいです。ホームページから自治会だよりや、真鶴町役場ホームページ等の外部サイトにもアクセス可能です。まだご覧になっていない方、是非閲覧してみてください。

教育体育部会 & 視察研修会

自治会だより第117号（12月号）をご覧ください。

編集後記

桜の便りが聞こえる良い季節になってきました。3月で自治会の活動も今季を終えようとしています。自治会連合会の特別委員会で町内の問題点を抽出して活動につなげることが分かりました。防災計画に基づく訓練の実施など、単位自治会により取り組みに差があるなどの課題や、高齢化の進む中でのゴミ出し困難の問題が残っています。また空き家問題の取り組みでは定期的に勉強会を開催し移住者につなげているなど、熱心な活動が紹介されました。皆様の近くに空き家問題などあれば相談されてはいいかがでしょうか。本年度も成人学級の終わりに社会見学が実施され、参加者の方からは良かった、コミュニケーションが取れるようになったなど喜びの声が寄せられました。ちなみに、自治会加入の方の参加費は安くなるそうです。桜の開花とともに花粉も多く飛ぶようになりま

す、皆様頑張りましょう。
(広報部 山下嘉邦)

自治会連合会 ホームページ

自治会の活動内容を
紹介しています。
是非ご覧ください。

